



自然には逆らえない

春に入って農作業も忙しくなってきた。10 a ほどだが、竹藪を購入して開墾した畑を持ち、週末は農作業で東京から山梨に通う▼季節はもう若葉から青葉へと移行しつつある。花や気象に詳しい友人から「季節の便り」が届いた。これによると、4月中の気温(東京)は月間平均気温で13・6℃と平年(13・9℃)をやや下回り、2010年の12・4℃以来の低さだという。「最近10年ほどは15℃前後の暖かな春の傾向(特に2018年はともに平年を3℃ほど上回った)からすると平年(1980～2010年の30年間)並みというのは珍しいことです。中でも4月下旬後半は肌寒い日が続いたため、ハンカチノキやナンジャモンジャ(ヒトツバタゴ)などの花が長い期間楽しめました」とあった▼山梨の畑では、4月中旬から例年と同じようにコマツナ、山東菜、こかぶ、ダイコン等々の種まきを始めた。そして26日にはナス、キュウリ、トマト等の苗を買ってきて移植。ところが27日の朝、畑に出てみると苗は霜にやられて全滅。芽が出始めたダイコン等も同様。周辺農家もブドウやジャガイモの芽をやられたとの話が飛び交う。気を取り直して、若干の間を置き5月の3日にあらためて苗を購入・移植して東京に戻ってきた▼その翌日は、山梨の最低気温は2℃の予報。かつ不安定な天候で、自宅近くの三鷹ではこの日、降雹があった。次に山梨に足を運ぶのは12日。果たして苗は無事か不安が募る▼とにかくこのところ寒暖の差が激しい。当たり前のことではあるが、農業は天気次第。自然には逆らえないことを噛みしめている。

(土着菌)